

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法Ⅱ Social work theory and method Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択 (社会福祉士国家試験受験資格取得必修)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大熊 信成	福祉棟3F	火～金9:00～17:00 (授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
相談援助における人と環境の相互作用に関する理論について学習し、援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。さらに相談援助のプロセスとそれに係る知識と技術について理解を深めていく。特にⅡでは相談援助の理論と方法Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、より実践的な知識と技術について理解を深めていく。				
授業の到達目標				
社会福祉に関する相談援助活動の専門職としての知識および技術を学び、具体的かつ実践的に理解でき、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えることができるようにする。特にⅡでは即戦力となりえる知識と技術について修得できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行う。必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行う。				
学習の成果				
①相談援助専門職として、より具体的な知識及び技術を学び、実践力を身につけることができる。 ②相談援助専門職として、効果的なアプローチ法は何かを判断し、それを実行することができるようになる。 ③相談援助の理論と方法についてマスターし、社会福祉士国家試験に合格できるレベルの知識と技術を修得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	相談援助の社会性について			
第2回目	ケースマネジメントとケアマネジメントについて			
第3回目	アウトリーチとは			
第4回目	相談援助における社会資源の活用・調整・開発			
第5回目	ネットワーキングとは			
第6回目	集団を活用した相談援助について			

第7回目	スーパービジョンとは	
第8回目	記録について	
第9回目	相談援助における個人情報の保護の意義と留意点について	
第10回目	相談援助における情報技術の活用について	
第11回目	事例検討の視点 事例分析の意義、目的、方法。留意点について	
第12回目	相談援助の実際 社会的排除の事例	
第13回目	相談援助の実際 社会的排除の事例	
第14回目	相談援助の実際 DV、虐待の事例	
第15回目	総括 まとめ 論述式筆記試験 (定期試験)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べるができる。序論、本論、結論と3部構成になっている。
調査報告書		
小テスト	10%	毎回の授業において小テストやリアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。
中間・学期末試験	60%	論述式・選択式で行う。
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
『相談援助の理論と方法Ⅱ』 弘文堂 ※相談援助の理論と方法Ⅰで使用したテキストも使います。		
履修上の心得・ルール		
一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認することがあります。口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		